

心に残る文化財子供塾 活動の概要と様子 ～ 雲南市立加茂小学校 ～

1. 概要

5月30日(木)、雲南市立加茂小学校で『心に残る文化財子供塾』を開催しました。「ふるさと加茂町の歴史を学ぼう」ということで、まず町内の加茂岩倉遺跡、神原神社古墳について教室で話をしました。銅鐸と鏡、古墳という遺跡の内容は、授業との関連づけがしやすく、日本史の流れの中で地域の遺跡を位置づけ理解できるように配慮して説明しました。加茂岩倉遺跡で出土した銅鐸は国内最多であること、神原神社古墳の三角縁神獣鏡は卑弥呼が魏からもらった鏡のうちの1枚である可能性があることなど、町内に日本の歴史に関わる重要な遺跡があることに驚いたようでした。

次に、穏やかな天気の中、片道20分の道りを歩いて神原神社古墳の見学に向かいました。事前に配布した観察シートに古墳の年代や特徴など、見学によってわかったことを書き込むよう指導しました。古墳の被葬者が眠っていた竪穴式石室に入るのは初めてという児童が多く、割石を積み上げた石室を目の当たりにして、古代の古墳構築技術の高さを感じた児童もいました。

最後に、学校に帰って勾玉作り体験をしました。勾玉は、各地の有力な古墳の副葬品ですが、体験用の軟らかい石材でも勾玉の製作が大変な作業であることを実感したようです。授業内容が盛りだくさんだったので、勾玉作りにかかる時間がやや少なく、もう少し勾玉を磨きたいという声もありました。

2. 様子

1) 加茂町内の遺跡についてについて学ぶ



加茂岩倉遺跡は、国内最多の銅鐸発見地です



神原神社古墳の鏡は、卑弥呼の鏡かもしれません

2) 神原神社古墳を見学する



興味深々に古墳の石室をのぞき込む子供たち



古墳の内部に入った感想は？

4) 勾玉づくり体験



勾玉は古墳に副葬品として納められました



競い合って勾玉づくり

2. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・遺跡見学で石室に入って、いろんな工夫があることを知り、歴史に興味をもちました。
- ・卑弥呼の鏡のような貴重なものがぼく達のすむ島根にあるとは驚いた。昔のことに興味がわいた。
- ・今日作った勾玉は軟らかい石だったけど、昔の人は固い石で苦勞して作ったのだなと思った。
- ・神原の名の由来についてわかったし、勾玉作りでは丸くするコツなどもわかったので、よかった。
- ・本物の銅剣や銅鐸、もっといろんな古墳を見たい。

2) 担任の先生から…

- ・学校で学習したことと、地域の遺跡を関連づけて話した上で、古墳を見学できた点が良かった。
- ・専門的立場にある方の話は説得力があった。
- ・地元にある遺跡を学ぶことで、ふるさとの良さを再発見することができたと思う。

3) 埋文センターから

これまでに加茂岩倉遺跡や神原神社古墳に行ったことのある児童は半数程度であったが、遺跡の説明を聞いた上で遺跡見学をしたことで、古墳のもつ意味がよくわかったようである。神原神社古墳は、調査後、移築復元されたものではあるが、現地で実際に見るといふ体験は何者にも代えがたいことである。

体験活動は、古墳見学との関連づけでは銅鏡作りでも良かったが、人数の関係もあり勾玉作りとなった。児童みんなが楽しんで取り組めたようだ。